

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年5月21日

新型コロナワクチン4回目接種：重症化リスクの高い人々には有効だが、それ以外の人々にはあまり意味がない：WHO見解

【松崎雑感】

日本では夏ごろから、60才以上の方と、それ以下の人々で基礎疾患のある方に4回目接種をすることになりました。一応、今日紹介するWHOの見解に従っているようです。問題は「基礎疾患」の定義なわけで、ワクチン接種後の抗体レベルを見ると、他に病気の無い喫煙者が、免疫低下疾患の人々と同じレベルの抗体レベルですので、60才以下でも喫煙ありの方を4回目接種の対象に入れる必要があるのではと思いますが、どうでしょうか？

新型コロナワクチン4回目接種：重症化リスクの高い人々には有効だが、それ以外の人々にはあまり意味がない：WHO見解

Mahase E. Covid-19: Second boosters may benefit at-risk groups but have "minimal" impact for others, says WHO. **BMJ**. 2022 May 19;377:o1259. doi: 10.1136/bmj.o1259. PMID: 35589118.

WHOは、新型コロナワクチンの2回目のブースター接種（つまり4回目接種）は60才以上の人々と、基礎疾患のある人々には短期間のベネフィットがあるだろうという見解を発表した（World Health Organization. Interim statement on the use of additional booster doses of Emergency Use Listed mRNA vaccines against COVID-19. 17 May 2022. <https://www.who.int/news/item/17-05-2022-interim-statement-on-the-use-of-additional-booster-doses-of-emergency-use-listed-mrna-vaccines-against-covid-19>）。

しかし若く健康な人々にとっては、4回目接種のベネフィットがあまりないようだといふ。

WHOは、4回目接種の効果に関するデータがファイザーワクチンやモデルナワクチンなどのmRNAワクチン以外にほとんどないと述べている。

WHOは、イスラエルにおける6調査とカナダの1調査をレビューした。

6調査では、mRNAワクチン3回目接種から4か月後に4回目接種を行ない、3回目接種のみの人々との相対的効果比較をした。他の1調査では、4回目接種者とワクチン未接種者の感染リスクの絶対差を比較している。これらの調査の追跡期間は4回目接種から2～10週間と短い。

ヘルスケアワーカーにおける4回目接種がブレイクスルー感染を減らした、3回目接種の身と比較して4回目接種が抗体レベルを若干増加させたなどの知見が報告されている。

ワクチン開発のタイムテーブルが不明

ワクチン未接種者と比較した重症化リスクが、接種回数によりどれくらい減るかを調査した研究では、3回目接種から84日以降で、重症化リスクが未接種者より82%（75～88%）、4回目接種から7日以降で92%（87～95%）減っていた。

「これらの限定的なデータによって、重症化リスクの高い人々に対する4回目接種が有益であることが示唆される。若く健康な人々におけるデータは少なく、初期的研究では、これらの人々におけるベネフィットはわずかであるとされている。したがって、どのような対象者に4回目接種を行なうかを定める場合、財源と医療資源への圧迫を十分考慮する必要がある」とWHOは述べている。

WHOはすべての新型コロナウイルスあるいはコロナウイルス科に有効な万能ワクチンの開発が必要と述べているが、開発のタイムテーブルは明示していない。

また、現存のワクチンが新たな変異株に対して、重症化と死亡を防ぐ効果を高める改良も必要としている。